



今月のトピック

「八木沢・蒲生地区」汚水処理施設竣工通水式

真夏の太陽が照りつける8月1日、只見町蒲生岳のふもとの蒲生字上の台地域において、団体営集落排水事業で施工された「八木沢・蒲生地区」汚水処理場が完成し、県農林事務所長（代理：農村整備部長）、事業主体である只見町長、生活環境課職員を始めとする当局、地元推進委員、地権者等数十名が参席し、竣工祝いと通水式が行われました。只見町の汚水処理場の通水は、同事業で施工した西朝日地区汚水処理場通水式に続くものであり、梁取汚水処理場からすると3番目の汚水処理場となります。



今日から快適生活のスタートです

施設規模 処理対象人口 400人（132戸）
被害防止農地面積 48ha
処理場規模 鉄筋コンクリート平屋づくり
床面積 267.45㎡

施工期間 平成9年～14年完成予定

事業費 930百万円（見込み）

式は、神事に続き通水式と進められ、町長を始めとする関係者一同のテープカットが打ち上げ花火の轟音とともに行われ小沼町長のスイッチオンで機械が稼働し供用が開始されました。

最近のめざましい機械性能の向上もあって、機械は小型化し騒音も静かになり、施設内の臭気も改善されています。また、既に43戸が下水道本管に接続しており、今日より快適な生活が送れるようになりました。

事業は、本年度管路工事が一部残っているものの、工事を引き続き行い、一刻も早く完成し、全地域一斉供用開始を早急に目指します。
(農村整備部)

「祝さいたま市誕生緑のボランティア IN TATEIWA」が開催されました

8月19日（日）、館岩村木賊温泉近くにある「さいたま市立館岩少年自然の家」において、「緑のボランティア IN TATEIWA」が43名の参加者のもと開催されました。

今年からは3市の合併により埼玉県さいたま市となったため、これまでの旧大宮市の他に、旧浦和市と旧与野市の中学生を対象に、林業体験を通して森林林業について理解してもらうことを目的として開催されました。

初めに、森林林業部の渡辺林業課長が「森林（もり）と仲間になろう」というテーマで、自然観察の方法や木材の利用方法等について話した後、「体験の森」で下刈り鎌による下刈り作業とチェーンソーを使用した間伐作業を約3時間体験しました。

8月中旬にしては珍しいくらいさわやかな青空の下、下刈り作業では手にマメをつくるほど一所懸命作業する参加者も多くいました。

終了後は、きれいになった林を見て皆満足感一杯の様子でした。

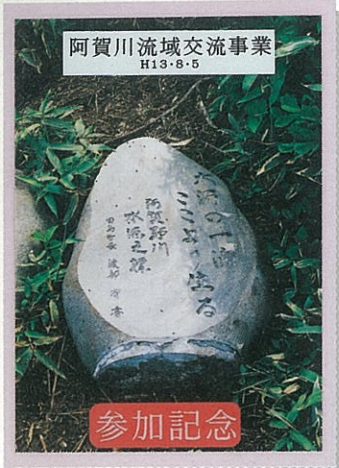
(森林林業部)



手にマメができるのも気がつかないほど一所懸命

「阿賀川流域交流活動事業」で源流探検！

私たちの住む南会津郡は、分水嶺である那須山脈の北側に位置し、阿賀川や伊南川の源流域である「緑と水の源泉地域」ですが、この恵まれた自然環境を生かして、8月5日に田島町滝ノ原地区において「阿賀川流域交流活動」が行われました。



「大河の一滴ここより生る」

この活動は、県企画調整部地域政策課の企画によるもので、阿賀川流域に住んでいる子供達が、川とのふれ合いを通じながら、森や川について理解を深めることにより、森、川、海が一体となった「循環の理念」に基づく地域づくりを推進するために開催したものです。

当日は好天に恵まれ、親子連れの参加者約30名は、豊かな森林の中で「森の案内人」の国持美沙子さんの案内によるネイチャーゲームを楽しみながら、交流を深めました。昼食会場となった河原では、子供達と一緒に水質調査を実施し、源流域の水の美しさに子供達は感嘆の声を上げていました。

また参加賞として、分水嶺の1つである荒海山の頂上に建立された、「大河の一滴ここより生る」の石碑の写真カードを配りました。

(森林林業部)



阿賀川の大きな流れもこの森から始まります

南郷トマト新規栽培希望者の勉強会を開く

南会津郡西部地域は、販売額7億円を超える福島県内屈指の夏秋トマトの産地です。“南郷トマト”の名で知られるこの夏秋トマトも他の作物と同様、栽培者の高齢化が進んでいます。そんな中、産地の拡大をはかるべく、若い力を得ようと、去る8月17日に南郷トマト栽培希望者のための勉強会が開催され、9戸11人の意欲あふれる方々が参加されました。

はじめに、今年度の新規栽培者圃場を見学し、コストや労力、現在までのトマトの生育状況の説明を受けながら、様々な意見の交換がなされました。参加者は、新規栽培者のその熱心な姿に心を打たれたようでした。

その後、南郷トマト生産組合の代表者から生産組合の説明を受け、圃場で新しい栽培技術である全自動かん水装置を使った栽培の様子を見学し、今に至るまでの生産・経営の状況などの説明を聞きました。

「不安を解消する言葉は何も見つからない。今までやってきても自分自身不安だから……。でもこれだけは言える。頑張れば、頑張っただけ結果が得られる作物だよ。」

そう言った先輩の言葉に、トマトの生産にかける強い意気込みと、栽培仲間に対する激励が感じられ、聞いていた参加者の心をも熱くしました。

今後もJA会津みなみと農業普及部で協力しあい、こうした意欲あるトマト栽培希望者の誘導をはかり、産地の強化、拡大に努めていきたいと思っています。

南会津の夏が、栽培者の意欲で熱く、そしてトマトで大地が赤くなりますように……。

(農業普及部)



頑張れば、頑張っただけ結果が得られる作物“南郷トマト”

『故郷の皆さんありがとう』

東京都国分寺市 羽染岩雄さん（伊南村多々石出身）

故郷の皆さん、お元気ですか？
 小学校三年生の時、雷によって両親と死に別れ、故郷の皆さんの手助けのお陰で育った私。そんな境遇が理由で発電所に勤務していた私は、山栗拾いに行った時、山が好きあまり夢中になって帰りが遅くなってしまい、社宅の人たちに大変ご迷惑をかけたことが、一生の思い出となっております。今、個人及び企業を取り巻く環境は益々悪化しており、グローバル化、IT革命の時代のニーズを的確に捉え、自己改革の産みの苦しみに勝つ事が生き残りの条件だと考えております。

今の下降景気は、早くて七年、遅くて十年は続くだろうと言われております中、これから行われる骨太改革。企業の倒産、失業者も増加してまいります。政府は色々な対策を打ち出すと言っておりますし、期待したいものです。

これに対し、私共はインターネットに乗って情報が世界を瞬時に流れ、世界標準がグローバルスタンダードで企業活動が営まれる時になってきました。

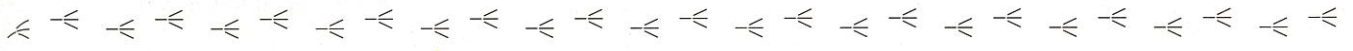
従って国境や会社といった壁は、遅かれ早かれ崩れていく運命なのかもしれません。

いずれにしろ、情報感度を研ぎ澄まし、時代の風向きを察知して俊敏に動いて行かなければならないでしょう。

故郷を出てから五十年。毎年帰省し山に行っております。

春はぜんまい、わらび、みずな、こごみ。秋には天然の松茸、しめじ、まいたけ、むき茸、なめこ、山ぶどう。よく山に入り、その空気を胸いっぱい吸い込んで、一日中山中を駆け巡り一日中自然に囲まれていたものです。

こんな故郷で育った思い出を胸に、東京の小さな会社での仕事も、厳しいけれど頑張っております。



うつくしま未来博 特派員だより

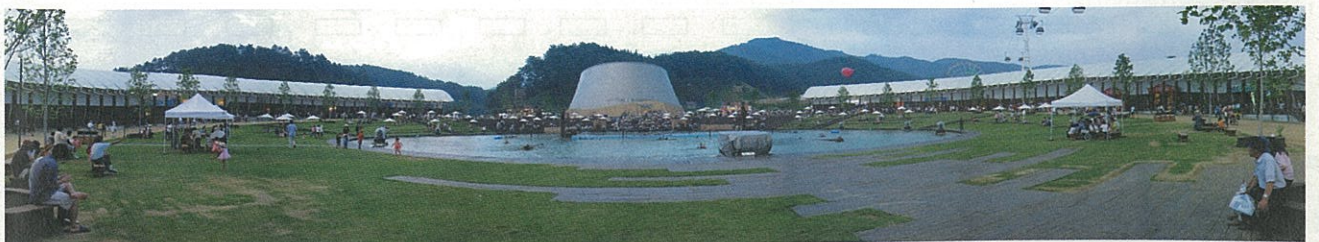
うつくしま未来博が開幕して早いもので2ヵ月が過ぎ、残りの開催期間が1ヵ月を切りました。皆さんはもう行かれたでしょうか？え！まだ行っていない・・・。それは大変。ぼやぼやしていると県内で行われる21世紀の大イベントを見逃すことになっちゃいますよ。

さて、未来博会場内では毎日様々なイベントが行われています。特に9月に入ってから西田ひかるやKiroroのステージ「D I V A～歌姫～Festival」（18～19日）や福島県太鼓連盟に所属する50団体すべてが一堂に集う「大地の響き in 福島」（23日）などの大きなイベントが目白押しです。「農林水産館」でも、毎週土日にはミニステージでいろいろなイベントが行われています。クイズやゲーム、料理教室のほか、22日～23日には牛モモ丸焼き実演・試食（これがかなり良い牛肉らしい）なんかもあってとってもお得です。

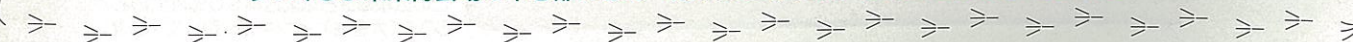
また、8月9日からナイトファンタジアの前に「トワイライト・ドリーム」（19：00～）が毎日開催されていますが、これがかなりすごい！花火がバンバンあがり、炎と噴水、レーザー光線が音楽に合わせて飛び交う迫力満点のショーは、絶対オススメです。

さあ、未来博にまだ行っていない人は話題に取り残されないように、行った人もまだ未来博の全ては見えていないはず・・・、今週末は家族連れで行ってみてください。

夜の未来博会場は冷えますので、羽織るものもお忘れなく。（南会津のうりんニュース未来博特派員）



うつくしま未来博会場の中心部にある「集いのみずうみ」でくつろぎのひとときを



今度はいつ咲くのであろうか？

平成13年8月19日（日）会津駒ヶ岳を訪ねた。頂上で一休みした後、中門岳まで足を運んだ。駒の小屋周辺から中門岳までの途中で咲いているはずの「コバイケイ（和名は小形のバイケイソウとも言われる）」の花は残念ながら見られなかった。

1年前の平成12年の夏8月21日に訪れたときにはあちらこちらにコバイケイの白い花の群落が見られていた。コバイケイの蕾の開きかけるときの淡い黄緑がかった白い色合いはすがすがしいものが感じられる。昨年見た、あの純な白色にあこがれを抱いていたのかもしれない。

私は、今年のあの素晴らしい光景をもう一度見たかった。そこで同時期を選んで今年も訪れたが、しかし、今年は咲いてはいなかった。ほとんど咲いていないのである。今年は蕾も着いていないのである。今年のあの光景は幻だったのかと疑いたくもなる。

今年の夏、駒の小屋の管理の方も「今年（12年）は何十年ぶりかのコバイケイの花が咲いた」と言われていたことを思い出した。あの花は毎年咲くものではないらしいと、うすうす気づいていたが今回はこんなにもはっきりとした自然現象の年度の違いが、目前で起っているのである。

いまになって思うと今年のあの素晴らしい光景を見ることが出来たのは大変なラッキーだったのかとも思う。高山植物の生態は解らないことが多すぎる。

普段あまり気にも留めていないことだったが今回ばかりは多に気になったのである。

昨年の見事なまでのコバイケイの花の群落は、20世紀を締めくくるミレニアムの年を飾る一大イベントだったのであろうか？。そして今度は何年後にあの素晴らしい光景を見せてくれるのであろうか？是非もう一度見たいものである。



2000年夏の開花状況

農業普及部長 玉木保雄

◆◆◆ 南会津地方の森林と親しむハンドブックを作成 ◆◆◆



自然観察・野外活動の必需品！

このたび南会津地方林業協会の協力を得て、緑と水の源泉地域の森林についてわかりやすくまとめた「森林のしくみ・自然観察・野外活動ハンドブック」を作成しました。

南会津地方の恵まれた自然環境と豊富な森林資源を有する実態を理解し、後世に正しい姿で引き継ぐために、小学生高学年から理解できる内容にしてあり、緑の少年団、ファミリー緑の教室、親子の勉強会等で利用できるよう構成しました。

内容は、森林のしくみ、自然観察、野外活動、もっと進んでの4つの区分にしてあり、各項目毎には「みんなで考えよう」のコメントを設けてありますので、どこからでも勉強できるようになっています。

地域の関係者に広く利用され、多くの方々に感心を持たれ、正しく理解していただければ幸いです。

申込先：南会津農林事務所森林林業部 TEL 0241-62-5371

(森林林業部)



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail m-nourin@akina.ne.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

猿楽台地のそば畑（下郷町）



古紙配合率50%再生紙を使用しています

この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。

